



大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和8(2026)年
9月号
通巻673号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和8年9月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



奈良県橿原市の藤原京跡で咲く蓮の花

(横田哲矢さん撮影)

座談会・法主を囲んで(再編集版)

みそぎ

禊を通して生き方を考え直す(第6回)

法主 矢追日聖(満64歳) 他

気の毒なお役目

法主 私はよく人にも話すけれども、血盟団の井上日召という大先生がおるわな。あの人はアジアでは有名な人や。孫文の革命のときでも、爆弾持って走ったりはった人やからな。

それでも現在意識では、自分は人殺しはしたら悪いということは井上日召さんは分かってきつてるんやね。ところがやで、あの人は「振魂」をいつもやらはるねん。あの人は「行をとる」という言葉を使うんや。振魂やることを「行をとったら」と言わはるねんな。

そうすると、自分の中から言うて来るものがあるんやな。「お前はあれとあの人間を殺すためにこの世に生まれてきたんや」と。それはもう自分で自分に言うんやから、傍の人が何を言っても、自分は善でもなし悪でもない、そういう役目で来ているというのや。それは自分の役目、その代わり殺した後の建設する役目には、誰かがおるやろという考えや。これを使命感と言うねんな。

そやから、井上日召さんみたいな変わった人生の生き方の人もおるわけや。本人自身にしてみたら、何にも善悪ないねん。その代わりやったことによつて、現在の法律で罰せられても苦にもしてないわ。社会では人を殺したら一応罪は受けないかんというふうに定められてるが自分で受けるんやから、屈託もない人やわ。何とも思とらへんわ。

これは結局、悪い例を話してるわけや。人を殺すというのは誰が考えても悪いと思うわな。それでも井上先生にしてみたら、自分はそれがために生まれてきているということや、人から言われて説教されて自覚したんやなしに、自分が言うんやもの。これは一番かなわんわな。それをやらなかったら、やらざるをえんような事になってくるから、やめるわけにはいかへん。これは使命感というやつやな。

まあ幸いに私の場合であれば、大倭で社会福祉とか平和とかいう仕事をするように運命づけられてきているから、今の社会通念からしてみたら幸せやなと思うんねん。

けど逆に、私自身に今の赤軍派みたいなことをして社会をかきまぜるような役目があったとしたら、それは一応入神して禊して自分自身で自覚し、信じたら浅間山荘で機関銃振り回している以上のことを私はやるか分からんわ。

今のところ自分はそういうような役目でない。お陰さんで社会福祉とか宗教とかという役目できているから、人からさほどとかよく言われんような、言うてみたら、ええグジ引いたんやわな。

だが、もし自分が今の赤軍派のような、ああいうような役目で自分が生まれてることを自分で自覚したら、おそらくわしはあれやってるかもわからん。あるいは人を殺してるかもわからない。

結局ね、赤軍派のような人達でも、禊もしてないけれども、やっぱり何かしらやらざるをえんようになってくる。今言う物事を掘り下げ掘り下げ社会問題やとかいろいろなこと、思想的でもいい、現在意識から入っていったとしても、結果においてはああいうようなことをやるようになってくるのは、自分の本心の動き、本心の要求があるんやと私は思う。

まあ、あのような役目で来た人は気の毒やと思う。えらそうに自分と比較してやけれどもね。やはりあんなお役目やなんやという思いで私は新聞も見ておるねん。ひとつも悪い人間やと思えへん。それは古代の人もみんなそういう見方してたと私は思う。今は社会が複雑になってるから、その人なりのお役目も非常に複雑やと思う、社会が社会やから。

結局自分を知る方法としては、今言う振魂というか、自分の氣と宇宙の氣というものとを交流させることによって、一体自分は何がためにこの世に人間として生まれたのか——牛に生まれる場合もあれば、馬に生まれる場合もあると思う——幸いに人間の社会で人間の肉体で生まれてきて、わずか百年足らずの人生の中で、自分は何をやるべきかということや、やっぱり自分に教えてもらわんと。人からこんなもん聞いたって分からんことやしね。

そういうような自分に対しての人生の根本的な問題の一つを解決するのには、どうしても言葉やとかやなしに、言挙げせんと、禊によって自分で自分を知ってゆくという、それが一番必要やと思う。

本当の禊をするなら

法主 今まで86回の禊会をずっと見てるけど、私はそういうような心境でおるものの、みんな集まって振魂やつておるのを見ていても、何か知らんけども陽気浮気みたいな、興味本意みたいな、しつくりきとらんわ。

例えば山田さんでも、霊媒の一つの現象がでてきたくらいなら、皆さつと自分の振魂をやめて見とるわ。山田さんが振魂を始めるとじきに憑かっ

てくるやろ。そしてバタバタと前に出て来て声でも出したら、みんな「何が下がって来はったんやろ」とじーっと見とる。それやったら何がために振魂やり始めたんやと思うねん。私の気持ちから見たら全面的に駄目なんや、この禊会はな。

けれども、今言うように、毎月毎月繰り返していくところにも意義があるし、別に効果みたいなものあってもなかったも、似たりよったりの20人足らずの人間が、いつでも顔を合やすということも、これまたええことやしな。そやけども、本当の禊の本質的なものは抜けてるわけやねん。今日までわしずつと見てきてるけども、というて残念やなあとも、これは何とか一つやり直さないかんとすることも、また案外私にはないねん、本当のところは。

だから私が思うのはね、本当の禊をやるんやったら、みんなが使う会館みたいな建物やなしに、一つの道場のようなものを別の場所につくって、「禊道場」として、これは禊だけを行うもののがちゃんとおって、その前には、形だけでもいいから、御本尊はなくてもかまへん、神一本だけでも御幣なら御幣だけでも置く。今日は禊会やというところ、海・山・川のを一応天地自然の神さんにお供えする形をとる。その中でやっぱり人間は舞台がなかったら、名人級の役者でも本当の芸は出ないと思う。綴帳の下がるような歌舞伎座でやるとのと、ここの車を並べておるような齋庭（※現拝殿の階段から踊り場あたり）の真中でやるのとでは違うと思う。

ある程度人間というのは、舞台装置も必要やねん。道場は狭くてもかまへんわ。例え10畳敷でも20畳でもかまへん。その中に祭壇というものをポーンと中心として、それで下は板間で、一寸位の板で少々踏んでもどうもないようなのを張っ

て、藁の円座をザーツと並べる。そこでちゃんと座って、そういうような舞台装置もなけりや。

本当の天地自然の気の交流というのは難しい。暑かっても我慢する、寒でも我慢する。自然と共に春夏秋冬の変化で、何も今日は裸だからといって火を入れる必要もないし。

杉本順一 ストープ焚いてぜんざい炊いて、それはそれでええけどな(笑)。そのいわゆる本質的な裸そのものからいくとやっぱりな……。

法主 みそぎの本質からいったら、寒かっても本当に自分が精神統一して、宇宙の気が来たら、温度も宇宙から来るから冷えこんだり寒くなったりはしないねん、本当は。内から電気がかかって来るのやからね。冬にでも逆に暑いといつて裸になる時がある。それやったら本当にみそぎの境地に入るねんけど、まあ大倭会館(※当時はプレハブ建て)ではそれは無理や。そこから、会館は初歩としてやで、今わしが言うのはこれは奥伝の方や。今私が言うてゐることは裸の本質の話をしてゐるのやから。

肉体をもった人間、カタチをもった人間、その中に宇宙の一つの分け御霊という生命体が肉体に入ってる。そうすると仮に裸をやる場にしても、神聖な場が必要や。まあここは川がないからこれはしょうがないけれども。

昔やったら冬は吹きっぱなしやもんな。つららが下がってたところでやったんやからね。しかしそれはここでは不可能やから、建物とすれば荘厳な自然と共にいくような舞台装置がいる。裸をする場もやはりそれにふさわしい形というものは必要になって来ると思う。これは言うてみたら奥義の話をしてんねんで。本当にやるんやったらそのままで舞台装置までしてやらんと本当にはならんと思う。

そしたら形式やけれども、入口を入っていくときには、サアーツと御幣でみんな祓ってから一人一人中へ入っていくような、そのくらいのお互いのまじめさ、真剣さがなかったら本当のみそぎにはならんと思う。

昔の人はみそぎやる時には、河原の清浄な所で、しめ縄をちゃんと張って、そこはもう禁足地のように浄らかなところやから、一度体をサーツと拭いて浄めてから行つたわけや。それでないと、しめ縄の中へは入れないぐらい厳肅やったんや。

だから、本当に真剣に裸をやると思ったらそれは必要やと私は思う。けどちょっと大倭では段階がまだ早いんや。しかし、そういうようなことを話して聞いていくとてくれたら私はええと思うんや。ゆくゆくはそうなった方がええやろなと思うねんけどもね。

「禊道場」の約束

法主 今コンクリートのブロック工場もやってくれているからあれでええねんけれども(※現在は大倭病院跡になっている)、天王山でブロック工場をやるときに私は神さんに言うたんや。うちは金がない、人間は生活に金がいるから一応生産工場として、ここでブロックをやらしてもらおう。

けれどもある程度金がまわって来てブロックをやらんでもええとときが来たときには、全部とり払って、ここで本当の禊道場を造りますとて、私は約束してあるねん。

ところが今言うような禊道場は、まだ今現在の時点では皆がやる資格がないと思う。それだからまだあそこでブロックをガチャコンガチャコンって、やってくれとんねんけどな。それは最初の時に誰かにそんなことを俺は話したと思うわ。

一応加美さんにお借りして、生産面の方でブロックが必要ないようになってきた時には、ここで本当に禊道場をするんやとわし当初に言うてあるねん。

青山目元 ブロックを始める時に聞きましたな。

法主 だからしばらくの間はちょっと生産に使わせてもらうから加美さんの方で辛抱してくれと、早くここで禊道場をするんやったら、早く儲けさせてくれと言うてあるねん(笑)。ところがいまだにまだブロックせんなんねんからやな、まだ、早いということやと思う。これは神ながらの動きやからな。

だからそうやってきたら、禊道場に入る時、一応ちゃんと精進齋して御幣で一人一人こうダツと祓うて入っていくようになる時があるやろうと思う。これは時期の問題や。

目元 そう言われてみればそうかもわからんな。他の方はわかりまへんで、私は裸会やいうても、今日は何食わしてもらえやろかと思つて行つてゐるかもわからへんわ(笑)。

法主 今日はぜんざいか、うどんかい(笑)。目元 本当にまじめな気持ちやなしに、どっちゃかというと、まあ裸会やし行かなあかんと思つてゐるかもしれん(笑)。

法主 それが本音かもわからんな(笑)。

水野勝美 本式の裸をやる場合の服装はどうなりますか。参考のために教えてもらえますか。

法主 その時やったら、もう少々汗かこうが何しようが、すぐにバアーツと洗濯できるようなもので、白色の無地で、夏やったら麻のようなもので、その時には普通の世俗のものを着ていつては都合悪いな。そんな時にはやで。

目元 この間も月次祭の時にちょっと言わさしてもらいましたが、宗教とか神ながらという

ものを耳にタコができるほど言われてきているけれども、何か事があつたらじきに神さんのことはどっかにパアツと消えてしまつて、自分の我が先にピューツと出てしまひよる。

法主 そこでね、本当にその本質的なそういった裸を一応そこでみんなやつた場合に、その結果、その人間が社会において、現在社会の中に入つて仕事をしていくんやけども、普通の人よりも一つプラスしたような精神内容で、いろんなことができると思う。それで特にね、勤が働くようになると思う。何するかで自分自身を支えてる自分の魂の援助がある。いわゆるこれは勤ていうのか、霊動した時に自分の意思以外の行動が出る。これは誰でもやと思うんねん。

自分が自分に教える

法主 例えばこれはポンチ(※杉本順一)がここにおるさかいに、例を上げるんやけど、昔霊動しよつた時に、ここに火鉢があつてここに毛が一本あんな。肉眼では見えへんけれども体をスーっともつていきよる。ああ、これ毛やと、自分でつまんどんねん。

というて無意識やないよ。自分の現在意識を意識としてはつきりあんのにやね、それになんやこの勝手に行くんやつて出てきて、火鉢の向こう側やから肉眼では見えない。それ何やと思つたら毛一本落ちとるねん、それを拾わされんねん。

つまり、本当にそうした本質的な裸をお互いに皆んながやつた場合、現在の自分の意識、自分のこの肉眼を通さんまでも、もう一つ奥までいろんなことを指示してくれたり、行動させてくれるんやろな。一例挙げたらそんなもんや。

火鉢の向こうにあつて、肉眼で見えへんところ

の毛一本でも勝手に拾いに行かされるような。「何や毛一本や」つて言うて拾つたわ。それはポンチの場合だけやない、皆がそうやと思う。今の現代人は、人間の考え方、肉眼で見える範囲、知識の及ぶ範囲以外の行動はできへん。毛一本が分かれへん。ただ肉眼で見えない毛一本でもちゃんと見えてんのかして、連れて行つてそれを拾ひしよるねん。

具体的に言うたら、この飛行機に乗つたらこの飛行機はどっかで落ちよるということを誰も落ちるまでわからへんけど、そういう場合でも、この飛行機が落ちよるということを自分でわかつて、そういうふうに乗らしよらへんわ。そやから未然に防ぎよる。自分の意思じゃわからへんねんで。なんでこの飛行機に乗れへんねんと本人は思とる。体をキューと反対に向かして行かしよらへん。そんな現象がみな日常生活の中でのすごい有効やと思う。

だから昔の武道の達人なんかでも、そうした意味で山の中で修練したら、いわゆる裸をやつとるわけやな。あんな人はもう命がけで裸をやるんやな。剣の道の名人達人つていうのはな。一つ間違えたら殺されるねんもの、真剣やわな。

そうすれば、歩いとつたかつて、向こうで伏兵がおるとか、暗殺するやつがおるとか、ちよつと自分で知らして分かんねん。そこからなんぼ行つたら構えておるなことがポンと分かつて、ちゃんと用心して歩いてきよるわな。せやから不意打ちバーっとくるたかてね、さつと躲(かく)したりしよる。あんな前から分かつとるもん。知らせよんねん。ポンチの例で言うたつて、肉眼で見えへんところの毛一本でも向こうに座つて、ちゃんと分かつたんねん。理屈は一緒やわな。それを日常生活の中で拡大して考えてみたらいい。人間にはそのよ

うな可能性が皆あんなねん。

例えば、自分の胃の加減がちよつと悪いとする。ところが自分の食欲はあつて自分のこの肉体の生命体は、まあこいつは胃と合わせて今日は2膳にさせとこと、中でちゃんと計算しとるのにやね、ところが現在意識はやっぱ腹減つたからと3杯目を食おうとしたとしても、2杯済んだら今度、口には滅多に持つていかしよらへん。ピューツと手離れてまうわ。ちゃんと守つてくれる。それはみんなが持つてる能力なんや。そこまで行く方法がいわゆる真面目な裸、いわゆる振魂から行くとそのなんねん、皆。

ところがまあ86回ずつと見てきたけど、まあ興味本位やとか、人が変わったことやつたら、おもしろいなと思つて見るのかな、まだそんな不真面目な裸会やわ。今日も。これはもう今いう初等か、初歩やから、まあそんでええわけやん。目で見て、あんなことも、こんなこともあんなねんと、そりやまあええわけやん。

けど、先ほどから言うてる舞台装置から始まつて、ちゃんとするというのは、もう奥伝の話や。まあ近い将来、そういうことになるやろうと思うけど。そこでお互いにその期間を裸でそれを通していったら、それが今度日常生活の中で生きてくるようになるんねん。そうしたら生活と日常の実際問題とを切り離して考えたらあかん。ちゃんとそれがもう一つになるねん。

(続く)

法主・言の葉



知ると識らざるに関わらず、地球上のすべてのものに神性がある。神の心を持つているのである。

じんづうりきによぜ
「神通力如是」の真意をさぐる

第四十四回

大倭教の源流にさかのぼって

今回の神語りには日蓮の高弟の日朗や日昭が登場します。また、「矢追家二代家麻呂」として矢追家のご先祖の一人が現れていくつかの因縁を語ってくれます。関連系図も作ってみましたので参考にしてください。

原文

(昭和16年12月6日の続き)

全日、午前八時、於屋内ニテ
吾レハ日朗ナリ。

才懐カシヤ師ノ御坊、日朗久シキ間ノ
コノ願、今日ノ日カナヒテ麗ハシキ御尊
顔ヲ拜シ日朗之上モナウ嬉シユ存ジ上
ケ奉ル。吾ガ兄弟子日昭モ既ニ御側ニ侍
ルト聞キ及ビ候。コノ末法ノ世ニ於テ眞
ノ正法妙法トナヘ國ノ立テ直シノ重キ
役、師御坊ニ下リシト聞キ吾レ馳セ参ジ
候。何卒前ノ世ノ縁ニヨリ日朗コノ身デ
出来ル事ナラバ如何ヤウナ事ナリトモオ
ウセアレ。必ズ必ズ為シ遂ゲ奉ル。師御
坊ハ御父母ノ罪障ニヨリ眞ノ妙法ハ説キ
玉フ事能ハズ、奇稻田姫命、天津皇祖ノ
御言ノ葉トシテ皆々會得サレルヤウ説キ
聞カセ下サレ。吾レモ神ヨリ眞ノ妙法ヲ

聞キ日蓮師ノ君ヲ永歳ノ間サガシ求メ
テ候。コノ上ハ吾レハ己ノ使命ニ向ヒ
死ヲトシテモ師ノ君ノタメ盡ス覚悟ニ
候。才懐カシノ君」

日聖云ふ、日朗の再誕が角田妙法な
り、師御坊とは日聖の意なり。

奇稻田姫、

今日ハ佳キ日ナリ。四海波静カニオ
サマリテ、コノ高天原ニ八百萬餘ノ神
等集ヒマシ、今日ノ日ヲ祝ヒ玉フ。

「今日ハ佳キ日、コノ高天原ノ尊キ地
ニ、八百萬餘ノ神等ガ、神集ヒマシ、
善哉善哉ト壽キ奉ルゾ、芽出度ケレ。

天津皇祖、雲ワケ出デテ世ニ出デ玉
フ。是レカラ愈々悪魔退治ガハジマル
ノジャ。諸天善神ノ前祝ヒ、今日カラ

眞ノ総動員、悪魔ハビコリ我ガ日本ヲ
闇ト化シ、一天萬乗ノ大君ハイタク御
心ナヤマサレ話ス相手ノ一人モナシ。

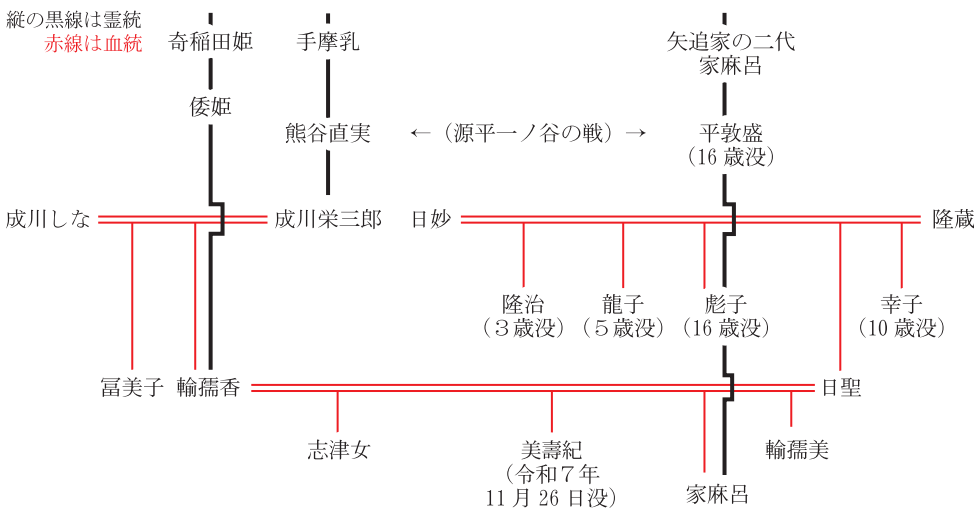
倭姫」

屋外山ヲ拝セル時。

「我ハ矢追家二代家麻呂。

吾レ矢追家ノ二代ナリ。吾レ現世ハ
日聖カ曹子家麻呂ナリ。神ハ古ヘノ名

関連系図 (7頁の解説「しょう(生)を変える」の参考のための図)



其儘、家麻呂トツケラレシゾ。吾レ前世無官大夫敦盛トシテ世ニ出デ熊谷次郎直實ニ吾命ヲ供養シ、熊谷ソレヨリ吾ノ回向、後亦日聖ノ妹トシテ世ニ出デ候。末法ノ世ニ於テノ一大事因縁ノ使命、我レ継ガント思ヘドモ熊谷ノ子ニソノ使命アルモノ出デラレ、是レ即チ奇稲田姫ナリ。熊谷即チ手摩乳ナリ。吾レ天上ニ昇リ天ノ仕事ヲ手傳ヒシガ亦タ此ノ世ニ於テ其功ニヨリ二代家麻呂トシテ生ヲ受ケタリ。吾レ父ノ心ヲツギ矢追家ヲモリ立テ候」

註一、日聖の妹、彪子なり。十六歳にて逝く。大正三年に生る。

註二、輪孺香

註釈文

①日朗(にちろう)「1245—1320」

鎌倉時代の日蓮宗の僧。日蓮六老僧の第二位。筑後房(ちくごぼう)、筑後殿とよばれ、大國阿闍梨(だいこくあじやり)と称される。下総(しもうさ)(千葉県)能手(ので)の人。叔父日昭の縁で1254年(建長6)入門、以後師のもとを離れないで給仕し日蓮佐渡(さど)配流のときは鎌倉長谷(はせ)の土牢(つちろう)(へいまの光則(こうそく)寺)に投獄された。師孝第一と称される。日蓮身延(みのぶ)入山後は長老の日昭とともに鎌倉にとどまって松葉谷(まつばがやつ)の草庵(そうあん)を管掌し、また鎌倉比企谷(ひきがやつ)に妙本寺、武蔵国(東京都)池上に本門寺を創立した。

また、平賀(ひらが)(千葉県松戸市)の本土(ほんど)寺の開山に迎えられたが、自らは行かず、弟子の日伝を赴かせた。弟子の教育に努めて多くの人材(朗門の九鳳(くほう)を輩出したが、なかでも日像(にちぞう)は日蓮門下として初めて京都へ進出した。教団の護持、発展に尽くした功績は六老中第一。『五時系図』『玄旨御本尊添状(げんしごほんぞんそえじょう)』などの著作がある。(小学館『日本大百科全書』による)

②日昭(にっしょう)

鎌倉時代の日蓮宗の僧。六老僧の一人字は大成弁、号は不輕院。通称は弁阿闍梨。日朗の叔父。比叡山で天台を学び、のち日蓮の門に入り、第一の高弟となった。日蓮没後その遺文を集めて「録内御書」を編纂。浜土の法華寺、那瀬の妙法寺を開いた。承久三(元享三年(1221—1323))(小学館『日本国語大辞典』による)神ヨリ

ここで言う「神」とは宇宙神霊のことだともわれる。

現代語訳

同日、午前8時、屋内において。
日朗「私は日朗です。

お懐かしい師の御坊(日蓮上人、法主)、日朗の長い間のこの願いが、今日のこの日に叶うことが出来て麗しいご尊顔を拝し日朗はこの上もなく嬉しく思います。私の兄弟弟子の日昭もすでにお側におられると聞いております。この末法の世の中において真の正法妙法を唱え、国の立て直しの重き役目が師の御坊に下ったと聞き私は馳せ参じました。なにとぞ前世の縁によって日朗のこの身で出来ることがあれば、どの様なことでも仰せつけ

ください。必ず必ず成し遂げます。師の御坊は御両親の罪障により真の妙法を説かれることは出来ませんでした。奇稲田姫命、天津皇祖(宇宙神霊)の御言葉として皆々様が会得される様に説き聞かせ下さいませ。私も神から真の妙法を聞き、日蓮師のあなた様を永い年月の間探し求めておりました。この上は私は己の使命に向かって死を賭けても師のあなた様のために尽くす覚悟です。お懐かしいあなた様」

日聖が語る、日朗の再誕が角田妙法である。師御坊とは日聖のことである。

奇稲田姫「今日は佳き日です。日本は静かに治まっています。この高天原である大倭神宮に数多の高級霊人が集まって、今日の日を祝われています」倭姫「今日は佳き日です。この大倭神宮の尊き地に、数多の高級霊人達が、集まわれてすばらしい、すばらしいとお祝い申し上げるのは、めでたいことです。

宇宙神霊が、雲を分け出でて現界に出られる。これからいよいよ悪魔退治が始まるのです。諸天善神の前祝い、今日から真の総動員です。悪魔がのさばり私共の日本を闇と化し世界を統治される天皇はひどく御心を悩まされ、(そのことを)話す相手は一人もおられません。倭姫」
屋外の山を拝んでいる時。
矢追家二代目家麻呂「私は矢追家二代目の家麻呂です。

私は矢追家の二代目です。私は現世では日聖の子供家麻呂です。神は遠い昔の名前そのままに家麻呂とつけられたのですよ。私は前世では無官大夫平敦盛として現界に出て熊谷次郎直実(私)の命を与えました。熊谷はそれから私のための回向をしました。後にはまた、日聖の妹彪子として世の中に出たのです。(その時に)末世の世の中にお

いての一大事因縁(宿命)の使命を私は継承しようと思ったのですが、熊谷の子にその使命ある者(輪廻香)があらわれ、父(日聖)を御守りされています。

それがつまり奇稲田姫です。熊谷はすなわち手摩乳です。私は霊界に行って天上界の仕事を手伝っていました。またこの世においてその(天上界での)手柄によって二代目家麻呂(過去世の家

こもれる魂魄の地を訪ねて(第57回)

島原の乱と山田右衛門作

兼田 隆

江戸時代前期、12万4千名の幕府軍を相手に天草四郎を総大将と仰ぎ、島原、天草地域で一揆が起ります。最後は3万7千名(キリスト教徒・農民・浪人等)が原城に籠り、幹部の1人を除いて全滅しました。この戦いを島原の乱または島原天草の一揆と言います。

今回は8月上旬に訪れた長崎県南島原市の魂魄の地を紹介します。

2018年(平成30年)7月4日に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されました。その中でも籠城軍が籠った原城跡は広さが東京ドーム約10個分の広さという城跡です。

8月上旬「酷暑」という言葉があてはまる日に訪問することになりました。路面の表面温度は爆上がり、汗が噴き出てきます。これ以上の原城滞在は危険と判断し、数十分で後にする事になりました。

麻呂はつまり現代の家麻呂)として生を受けました。私は父である日聖の心を継いで矢追家を守り育てます。

解説「しろう(生)を変える」

今月号の神通力如是に系図(5頁)があります。そこに法主さんのご兄弟に、成人をまたずして帰幽された方々がおられます。

いま籠城している者たちは、来世まで友になる。

天草四郎の名言格言より

次に訪れたのは、2024年9月にオープンした原城聖マリア観音ホールです。40年もの歳月を経て1人で彫り続けた10メートルもある原城聖マリア観音、木彫りの像としては世界一大きなマリア像です。作品制作は新潟県佐渡島生まれの彫刻家親松英治さんという方で、若かりし頃に原城跡を訪れた時に、目立った慰霊碑がないことに気づかれマリア像の製作を決意されたとの事です。ホールに入るとクスノキの香りが漂い優しい顔をした聖マリア観音と会うことが出来ます。

最後の訪問地が山田右衛門作関連の魂魄地でした。原城籠城軍で唯一生き残ったのが右衛門作です。絵師でもあり、籠城軍の幹部で天草17人衆の一人と数えられた右衛門作は、幕府軍に対して投降、交渉の道を探ろうとします。矢文を通して幕府軍に情報を流していたことが露見し落城前には、裏切り者として妻子が籠城軍に殺されてしまいます。乱後一人残された右衛門作は、江戸に連行され取り調べを受けます。その時の口上書が籠城軍の様子を知る、かなり貴重な資料となり後世に伝

そんな方々の話をされている時、法主さんは「しろう(生)を変える」と言われることがありました。

それは帰幽された人の前世の時代にあつたもろもろの生き様のうちに、仏教に言う、ものごとの生ずる原因(因縁)をかえて次の再誕の人生に期待することを言われたのだと思います。(杉本)

える事ができました。

原城に籠城するまで住んでいたと言われている所が南島原市口之津町にあります。ここには彫られている右衛門作の供養塔もあります。

◀原城聖マリア観音像

▼原城址内の天草四郎時貞銅像



あじさい日誌

8月8日 午前8時半から翌日の大掃除に先駆け、坂内造園さんにより鏡池や西斎庭、瑞光院周辺の草刈りが行われました。

8月9日 午前8時から大倭墓地の大掃除。その後午前9時から紫陽花邑の大掃除が行われました。約80名の参加で境内がきれいになりました。

8月15日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。この日は昭和20年8月15日大倭教立教開宣記念日。

8月19日 午後1時から松本直之さんの呼びかけで、熊本県阿蘇郡の安倍真里さん、名古屋市の落合淳美枝さん、熊本県阿蘇郡の杉本淳さん、京都府宇治市の辻本博さん、京都市の永田幸子さん、大阪府枚方市の森明子さんらが来邑され杉本順一さんと教務本庁で歓談されました。

8月23日 午後2時から大倭大本宮拝殿において月次祭が行われました。この日は昭和38年8月23日の法話をお聴きしました。

8月26・29日 青森から高橋延之さんが来邑されました。

8月27日(旧7月15日) 午前11時半から東方の碑前にて、東光大祭及び祖霊祭開始の御挨拶があり、正午より奥津斎庭で祖霊祭が行われました。その終了

後拝殿に入られた祭主家長麻呂さんにより東光大祭が行われました。



祖霊祭が行われている間は拝殿において、平成4年の東光大祭の法話(映像記録)を見ていただきました。

祭典後、任意で大倭会館にて交流会が行われました。

この夜は千葉県の遠藤浩子さん、東京都町田市の得田典子さん、広島県の中本好子さんが会館で一泊されました。

8月29日 午後5時から教務本庁で本紙『おおやまと』の編集会議が開かれました。

9月6日 午前8時から10時ごろまで大倭墓地と土師部の杜の大掃除が行われました。

午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。

午後6時半から大倭会館で呂侯の会が開かれました。

午前11時より「NPO法人む

すびの家」の理事会が交流の家で開催され、引き続き午後1時半から総会とFIWCの定例委員会が行われました。

9月からNPO法人は第24期に入りました。

大倭安宿苑では

(菅原園)

8月23日 午後から会議室にて映画サークルを行いました。今回は新しい入居者の希望で、映画『ドールハウス』を上映。ホールだったため、途中で退出する方もいましたが、ほとんどの方は最後まで見られました。見終わった後、「スツキリしない

法主をめぐる

四方山話(2)

「物の命(使命)」

青山 法義

私が小学校に上がる前、斎庭(現在の拝殿を降りたところ)でおもちゃにしていた包丁(刃がかげ、持ち手のないもの)とお茶碗(少し欠けていたもの)で遊んでいた。法主さんが何処から帰ってこられ、「何をを使って遊んでいる?」と尋ねられ、私は、「貰ったやつ」と答えるとピンタが飛んできて、(クルッと一回転した気がする)。大倭の子で法主さんにピンタをされたのが私が最後だった。そのあとで「物には命(使

たりしました。

(長曾根寮)

8月9・16日(特養)フロアにて花火の写真の飾り付けを行い、夏に関わる音楽を流して季節を感じてもらいました。

8月19・20日(デイ)作品づくりで皆さんと一緒に手作りの風鈴を作りました。

(茂毛路園)

8月21日 午後から1階あじさいホールで茂毛路園夏祭りを開催しました。内容は、入居者にチケットを配布し、職員手製のアトラクション(射的ゲーム・ピンボール入れ・輪投げ)を体験しました。また、屋台(かき氷・焼きそば・カットフルーツ・チョコバナナ)も皆さん美味しく召し上がり、最後に記念写真も撮り、お祭りの雰囲気を楽しみました。

あんない

*月次祭(大倭神宮)

10月6日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催祝会

10月11日(日) 午後2時より大倭拝殿にて。

*月次祭(大倭神宮)

10月15日(木) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大倭大本宮)

10月23日(金) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。